

# 編 修 趣 意 書

## (教育基本法との対照表)

※受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
102-100	高等学校	地理歴史	歴史総合	
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※教 科 書 名		
7 実教	歴総 703	詳述歴史総合		

### 1. 編修の基本方針

- 2条の目標を達成するため、次の通り編修した。
- ・ 幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養う観点から、社会史などの歴史学の新しい研究成果をとり入れ、様々な視点から近現代史学習をより深めることができるコラム「Close Up」や特設ページ「STEP UP」を設けた（第1号）。
  - ・ 個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養う観点から、各ページに、資料を読み解いて主題を考察する「Approach」、資料を読み解き学習意欲を高める「Check」、学んだことを活用して考え、表現する「Try」など、様々な問いを段階的に設定し、近現代史を主体的かつ多面的・多角的に考察・構想・議論することができるよう工夫した。さらに、本文ページで習得した知識を活用し、諸資料を使って多面的・多角的に考察・表現する特設ページ「ACTIVE 歴史を資料から考える」を、章の途中や章末に設けた（第2号）。
  - ・ 正義と責任、男女の平等、自他の敬愛と協力を重んずるとともに、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養う観点から、歴史学習を通して、よりよい社会の実現に向けて生徒が課題を展望することができるよう、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を考察する特設ページを設けた。また、本文ページとともにコラムや特設ページを通じて、女性の政治参加を求める動きや社会的地位の変化を考察できるよう工夫した（第3号）。
  - ・ 生命を尊び、自然を大切にし、環境の保全に寄与する態度を養う観点から、産業の発達にともなう環境問題の発生やその克服に向けた取り組みについて歴史的な視点から取り上げ、問いを活用して現代社会とのつながりや共通点・相違点を考察・議論することができるよう工夫した。また後見返し裏「日本の世界遺産」のなかで日本の自然遺産を取り上げた（第4号）。
  - ・ 伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養う観点から、世界と日本の関わりを示す事例を取り上げたコラム「Link 世界と日本」を設けるとともに、比較・関連付けの問いを活用することで、世界とその中における日本を広く相互的な視野から捉えることができるよう工夫した。また、後見返し裏「日本の世界遺産」で日本の文化遺産を取り上げた（第5号）。

### 2. 対照表

図書構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
前見返し	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自然を大切にし、環境の保全に寄与する態度を養う観点から、地勢図によって世界の自然環境を概観できるようにした（第4号）。</li> <li>・ 幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養う観点から、世界史における王朝・国の変遷を図表にして取り上げた（第1号）。</li> </ul>	<p>前見返し 1～2</p> <p>前見返し 3</p>

<p>歴史の扉・ 絵画資料を読み解く</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重する態度を養う観点から、おもに江戸時代から明治時代における日本に住む人々の時間・労働についての意識を、当時日本に滞在した外国人の記録などをもとに取り上げた（第5号）。</li> <li>・個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養う観点から、生徒が主体的に資料を読み解き、考察するうえで必要な基本的技能を身につけることができるよう、本文記述や問い、資料の取り上げ方を工夫した。（第2号）</li> </ul>	<p>p. 10～12  p. 13～17</p>
<p>近代化への問い</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養う観点から、架空の先生・生徒が会話しながら資料を読み解き、問いや仮説を立てていく形式をとることで、それを参考にして、生徒が主体的に資料から情報を読み取ったりまとめたりする技能を身につけ、自分自身の問いを表現することができるようにした（第2号）。</li> </ul>	<p>p. 18～21</p>
<p>第1章</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養う観点から、章扉に世界地図や年表などを設け、第1章で扱う時代の世界とそこにおける日本の状況を概観した(第1号)。</li> <li>・個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養う観点から、各ページに様々な問いを段階的に設定し、近現代史を主体的かつ多面的・多角的に考察・構想・議論することができるよう工夫した（第2号）。</li> <li>・伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重する態度を養う観点から、特設ページで琉球とアイヌの文化について記述した（第5号）。</li> </ul>	<p>p. 22～23  p. 22～37  p. 32～33</p>
<p>第2章</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養う観点から、章扉に世界地図や年表などを設け、第2章で扱う時代の世界とそこにおける日本の状況を概観した(第1号)。</li> <li>・個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養う観点から、各ページに様々な問いを段階的に設定し、近現代史を主体的かつ多面的・多角的に考察・構想・議論することができるよう工夫した（第2号）。</li> <li>・男女の平等を重んずる態度を養う観点から、コラムでグーリュと『女性の権利宣言』について取り上げ、その思想が女性解放思想・運動の先駆けとなったことにふれた（第3号）。</li> <li>・生命を尊び、自然を大切に、環境の保全に寄与する態度を養う観点から、産業革命による工業化の進展が、地球温暖化など現代の環境問題の出発点になったことに気づかせるコラムを設けた（第4号）。</li> <li>・伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重する態度を養う観点から、世界と日本の関わりを取り上げたコラムを設けたほか、世界と日本を比較・関連付けて考察させる問いを置いた（第5号）。</li> </ul>	<p>p. 40～41  p. 40～63  p. 48  p. 45  p. 50, 53, 55, 57, 59, 63</p>
<p>第3章</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養う観点から、章扉に世界地図や年表などを設け、第3章で扱う時代の世界とそこにおける日本の状況を概観した(第1号)。</li> <li>・個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養う観点から、各ページに様々な問いを段階的に設定し、近現代史を主体的かつ多面的・多角的に考察・構想・議論することができるよう工夫した（第2号）。</li> </ul>	<p>p. 66～67  p. 66～83, 86～93</p>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・男女の平等を重んずる態度を養う観点から、自由民権運動と女性の関わりについても取り上げた（第3号）。</li> <li>・伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重する態度を養う観点から、世界と日本の関わりを取り上げたコラムを設けたほか、世界と日本を比較・関連付けて考察させる問いを置いた（第5号）。</li> </ul>	<p>p. 88</p> <p>p. 68, 69, 71, 73, 74, 75, 77, 79, 81, 88, 89, 93</p>
第4章	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養う観点から、章扉に世界地図や年表などを設け、第4章で扱う時代の世界とそこにおける日本の状況を概観した(第1号)。</li> <li>・個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養う観点から、各ページに様々な問いを段階的に設定し、近現代史を主体的かつ多面的・多角的に考察・構想・議論することができるよう工夫した(第2号)。</li> <li>・男女の平等を重んずる態度を養う観点から、19世紀なかば以降、欧米諸国で女性参政権を要求する運動がはじまったことをコラムで取り上げた(第3号)。</li> <li>・生命を尊び、自然を大切に、環境の保全に寄与する態度を養う観点から、公害としての足尾銅山鉍毒問題についてコラムで取り上げた(第4号)。</li> <li>・伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重する態度を養う観点から、世界と日本の関わりを取り上げたコラムを設けたほか、世界と日本を比較・関連付けて考察させる問いを置いた(第5号)。</li> </ul>	<p>p. 96～97</p> <p>p. 96～113</p> <p>p. 101</p> <p>p. 109</p> <p>p. 98, 103, 107, 113</p>
近代化と現代的な諸課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養う観点から、歴史学習を通して、よりよい社会の実現に向けて生徒が課題を展望することができるよう、「格差と平等」の観点から現代的な諸課題の形成に関わる近代化の歴史を考察する特設ページを設けた(第3号)。</li> </ul>	<p>p. 118～119</p>
国際秩序の変化や大衆化への問い	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養う観点から、架空の先生・生徒が会話しながら資料を読み解き、問いや仮説を立てていく形式をとることで、それを参考にして、生徒が主体的に資料から情報を読み取ったりまとめたりする技能を身につけ、自分自身の問いを表現することができるようにした(第2号)。</li> </ul>	<p>p. 120～123</p>
第5章	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養う観点から、章扉に世界地図や年表などを設け、第5章で扱う時代の世界とそこにおける日本の状況を概観した(第1号)。</li> <li>・個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養う観点から、各ページに様々な問いを段階的に設定し、近現代史を主体的かつ多面的・多角的に考察・構想・議論することができるよう工夫した(第2号)。</li> <li>・男女の平等を重んずる態度を養う観点から、第一次世界大戦前後に各国で女性参政権が実現したこと、日本でも女性参政権を求める運動が展開されたことを取り上げた(第3号)。</li> <li>・伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重する態度を養う観点から、世界と日本の関わりを取り上げたコラムを設けたほか、世界と日本を比較・関連付けて考察させる問いを置いた(第5号)。</li> </ul>	<p>p. 124～125</p> <p>p. 124～149</p> <p>p. 144～147, 150～151</p> <p>p. 131, 132, 141, 145, 147</p>

第 6 章	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養う観点から、章扉に世界地図や年表などを設け、第 6 章で扱う時代の世界とそこにおける日本の状況を概観した(第 1 号)。</li> <li>・個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養う観点から、各ページに様々な問いを段階的に設定し、近現代史を主体的かつ多面的・多角的に考察・構想・議論することができるよう工夫した(第 2 号)。</li> <li>・男女の平等を重んずる態度を養う観点から、第二次世界大戦後に日本でも女性参政権が実現し、女性議員が誕生したことを取り上げた(第 3 号)。</li> <li>・伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重する態度を養う観点から、日本国憲法を世界史のなかに位置付けるコラムを設けたほか、世界と日本を比較・関連付けて考察させる問いを置いた(第 5 号)。</li> </ul>	<p>p. 152～153</p> <p>p. 152～161, 164～171</p> <p>p. 179</p> <p>p. 154, 159, 169, 177, 179, 183, 185</p>
国際秩序の変化や大衆化と現代的な諸課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養う観点から、歴史学習を通して、よりよい社会の実現に向けて生徒が課題を展望することができるよう、「統合と分化」の観点から現代的な諸課題の形成に関わる国際秩序の変化や大衆化の歴史を考察する特設ページを設けた(第 3 号)。</li> </ul>	<p>p. 188～189</p>
グローバル化と私たち	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養う観点から、架空の先生・生徒が会話しながら資料を読み解き、問いや仮説を立てていく形式をとることで、それを参考にして、生徒が主体的に資料から情報を読み取ったりまとめたりする技能を身につけ、自分自身の問いを表現することができるようにした(第 2 号)。</li> </ul>	<p>p. 190～193</p>
第 7 章	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養う観点から、章扉に世界地図や年表などを設け、第 7 章で扱う時代の世界とそこにおける日本の状況を概観した(第 1 号)。</li> <li>・個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養う観点から、各ページに様々な問いを段階的に設定し、近現代史を主体的かつ多面的・多角的に考察・構想・議論することができるよう工夫した(第 2 号)。</li> <li>・生命を尊び、自然を大切にし、環境の保全に寄与する態度を養う観点から、高度経済成長期の公害問題とその対策としての公害対策基本法の制定や環境庁の設置などについて、コラムで記述した(第 4 号)。</li> <li>・伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重する態度を養う観点から、世界と日本の関わりを取り上げたコラムを設けたほか、世界と日本を比較・関連付けて考察させる問いを置いた(第 5 号)。</li> </ul>	<p>p. 194～195</p> <p>p. 194～209</p> <p>p. 207</p> <p>p. 199, 201</p>
第 8 章	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養う観点から、章扉に世界地図や年表などを設け、第 8 章で扱う時代の世界とそこにおける日本の状況を概観した(第 1 号)。</li> <li>・個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養う観点から、各ページに様々な問いを段階的に設定し、近現代史を主体的かつ多面的・多角的に考察・構想・議論することができるよう工夫した(第 2 号)。</li> </ul>	<p>p. 212～213</p> <p>p. 212～225</p>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・男女の平等を重んずる態度を養う観点から、1970～80年代の日本における生活・家族のあり方の変化や男女雇用機会均等法の制定などを取り上げた（第3号）。</li> <li>・生命を尊び、自然を大切に、環境の保全に寄与する態度を養う観点から、近現代史におけるエネルギーの変遷を理解し、持続可能なエネルギーのあり方について考察する特設ページを設けた（第4号）。</li> <li>・伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重する態度を養う観点から、世界と日本の関わりを取り上げたコラムを設けたほか、世界と日本を比較・関連付けて考察させる問いを置いた（第5号）。</li> </ul>	<p>p. 225</p> <p>p. 216～217</p> <p>p. 214, 221</p>
第9章	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養う観点から、歴史学の新しい研究成果をとりいれ、様々な視点から近現代史学習をより深めることができる特設ページを設けた（第1号）。</li> <li>・個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養う観点から、各ページに様々な問いを段階的に設定し、近現代史を主体的かつ多面的・多角的に考察・構想・議論することができるよう工夫した（第2号）。</li> <li>・生命を尊び、自然を大切に、環境の保全に寄与する態度を養うとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養う観点から、地球環境問題や感染症、経済格差、移民・難民など国際社会が取り組むべき課題などについて記述した（第4・5号）。</li> </ul>	<p>p. 226, 228, 230</p> <p>p. 226～231</p> <p>p. 230～231</p>
現代的な諸課題の形成と展望	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養う観点から、生徒の探究活動の例として「戦争の防止への国際的取り組みの歴史的経緯と課題」を取り上げ、「主題の設定と学習上の課題（問い）の設定」「資料の収集・分析」「考察・構想」「まとめ・表現」「学習の振り返り」の過程を架空の先生・生徒の会話形式で例示し、生徒がこれまでの学習をふまえて、主体的に探究活動の見通しをもつことができるよう工夫した。また、「まとめ・表現」に関しては生徒のレポート作成例を掲載したほか、他の主題の設定例も示した。</li> </ul>	<p>p. 234～239</p>
後見返し	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自然を大切に、環境の保全に寄与する態度を養うとともに、伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛する態度を養う観点から、「日本の世界遺産」を日本地図のなかで概観した（第4・5号）。</li> <li>・他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養う観点から、現在の世界地図を掲載した（第5号）。</li> </ul>	<p>後見返し 4</p> <p>後見返し 5～6</p>

### 3. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

- ・学校教育法第五十一条三項（社会について、広く深い理解と健全な批判力を養い、社会の発展に寄与する態度を養うこと。）に即して、本文記述や特設ページなど教科書全体を通じて、国際社会に生きる高校生が世界とそこにおける日本を広く相互的な視野から理解し、現代社会が抱える課題についても考察することができるよう配慮した。

# 編 修 趣 意 書

(学習指導要領との対照表、配当授業時数表)

※受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
102-100	高等学校	地理歴史	歴史総合	
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※教科書名		
7 実教	歴総 703	詳述歴史総合		

## 1. 編修上特に意を用いた点や特色

「歴史総合」が地理歴史科の必修科目であることを鑑み、生徒が興味・関心を持ちながら、世界とその中の日本を広く相互的な視野から捉え、資料を活用しながら歴史の学び方を習得し、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を無理なく学習できるように、下の点について配慮した。

- 1) 生徒が世界とその中の日本を広く相互的な視野から捉えることができるよう、各章の扉に、その章であつかう時代を概観した文章や世界地図、地域別年表などを置き、世界と日本の動きを関連付けながら学習できるようにした。また、世界と日本の結びつきに注目させるコラム「Link 世界と日本」や、世界と日本を比較・関連付けて考察させる問いを随所に設けた。
- 2) 「知識及び技能」と「思考力、判断力、表現力等」を身に付ける学習が一体となって展開され、深い理解に至ることができるよう、全編にわたって課題（問い）を設定するなど配慮した。特に各節（見開き2ページ）では、生徒が主体的かつ多面的・多角的に考察・表現することができるよう、以下のように課題（問い）を段階的に設定した。
  - ①節タイトル下の問い  
…その節で扱われる歴史の推移や展開を考察し、理解を促すための問い。
  - ②Approach  
…冒頭の資料を読み解いて、節の主題を考察する問い。
  - ③Check  
…資料の読み解き、他節の内容との関連付け、世界と日本の比較・関連付けなど、さまざまな観点から本文内容の考察・理解を促す問い。
  - ④Try  
…その節で学んだことをふまえ、比較・関連付けや歴史的意義、現在とのつながりなどの観点から、生徒が自身の考えをまとめたり表現したりするなどして、より深い理解に至るための問い。
- 3) 本文ページで習得した知識をふまえ、諸資料を活用しながら多面的・多角的に考察・表現することで、思考力・判断力・表現力等を養うことができる特設ページ「ACTIVE 歴史を資料から考える」を、章の途中や章末に設けた。
- 4) 大項目A「歴史の扉」の「歴史と私たち」では、生徒が自分の身の回りの物事にも歴史があり、また世界の歴史ともつながっていることを理解できる身近な例として「時間と労働管理」を取り上げた。「歴史の資料と特質」では、「産業革命期の生活」を取り上げ、資料に基づいて歴史が叙述されていることや資料を取り扱う際の留意点に気づくことができるよう配慮した。さらに、「歴史の資料と特質」で学んだことをふまえ、資料を読み解く基礎的スキルを養うための実践ページ「絵画資料を読み解く」を設けた。

- 5) B～Dの中項目（1）では、架空の先生・生徒が会話しながら資料を読み解き、問いや仮説を立てていく形式をとることで、それを参考にして、生徒が主体的に資料から情報を読み取ったりまとめたりする技能を身につけ、自分自身の問いを表現することができるようにした。また、生徒が自身の問いを書き込めるよう、記入欄を設けた。
- 6) Bの中項目（4）「近代化と現代的な諸課題」では「平等・格差」を観点に、Cの中項目（4）「国際秩序の変化や大衆化と現代的な諸課題」では「統合と分化」を観点にそれぞれ主題を設定し、よりよい社会の実現を視野に現代的諸課題を主体的に追究・解決しようとする態度を養えるよう工夫した。
- 7) Dの中項目（4）「現代的な諸課題の形成と展望」では、生徒の探究活動の例として「戦争の防止への国際的取り組みの歴史的経緯と課題」を取り上げ、「主題の設定と学習上の課題（問い）の設定」「資料の収集・分析」「考察・構想」「まとめ・表現」「学習の振り返り」の過程を架空の先生・生徒の会話形式で例示し、生徒自身が主体的に探究活動の見通しをもつことができるよう工夫した。また、「まとめ・表現」に関しては生徒のレポート作成例を掲載したほか、他の主題の設定例も示した。
- 8) 多様な視点から近現代史学習を深め、生徒の興味・関心を高められるよう、新しい研究成果を盛り込んだ「Close Up」や「STEP UP」を随所に設けた。「STEP UP」には諸資料のほか、主題を明確にする問い（冒頭の文章）、資料読み解きの問い（Check）、まとめの問い（Try）を設け、「知識及び技能」と「思考力、判断力、表現力等」を身に付ける学習が一体となって展開されるよう配慮した。
- 9) 近現代の歴史が現代的な諸課題の形成に深く、直接的に関わっていることを認識できるように、コラム「Link 歴史と現在」を設け、環境や女性、日本国憲法などを事例として取り上げた。
- 10) 近現代史における著名な人物を取り上げ、歴史上に果たした意義や興味深いエピソードを記述したコラム「key Person」を随所に設けた。
- 11) 概念用語をはじめ、本文を理解するうえで重要な歴史用語については、「用語説明」でコンパクトにわかりやすく解説した。
- 12) 第1編と第2編の最後に「まとめページ」を設け、年表の空欄補充（概念用語）やグループワークなどによって、それぞれの編で学習したことをふりかえり、定着させ、さらに生徒同士で共有できるよう工夫した。
- 13) ヨーロッパ・アメリカや東アジア、日本など、それぞれの地域の近現代史を通して学習する際に役立つよう「地域別インデックス」を設けた。
- 14) 歴史を学ぶうえでの基本的な知識をまとめた「歴史を学ぶための基礎知識」や、中学校で学んだ宗教についての基本的な知識を復習できる「世界史のなかの宗教」を設け、生徒がスムーズに近現代史学習に入ることができるよう工夫した。
- 15) 近代国家の形成期に、我が国の領土がロシアなどとの間で国際的に確定されたこと、また我が国が国際法上正当な根拠に基づき竹島、尖閣諸島を正式に領土に編入した歴史的経緯について取り上げた。

## 2. 対照表

図書の構成・内容	学習指導要領の内容	該当箇所	配当 時数
歴史の扉 歴史と私たち－時間・労働管理と 私たち	A 歴史の扉 (1) 歴史と私たち	p. 10～12	1
歴史の特質と資料－産業革命期の 生活を読む	(2) 歴史の特質と資料	p. 13～15	1
絵画資料を読み解く		p. 16～17	1
近代化への問い	B 近代化と私たち (1) 近代化への問い	p. 18～21	1
第1章 近代化への胎動		p. 22～39	4
第2章 欧米の市民革命と 国民国家の形成	(2) 結び付く世界と 日本の開国	p. 40～65	8
第3章 アジアの変容と 日本の近代化	(3) 国民国家と明治維新	p. 66～95	9
第4章 帝国主義の時代		p. 96～115	6
近代化と現代的な諸課題 －産業革命にはじまる工業化は 人々に何をもちたのだろうか	(4) 近代化と 現代的な諸課題	p. 118～119	1
国際秩序の変化や大衆化への問い	C 国際秩序の変化や 大衆化と私たち (1) 国際秩序の変化や 大衆化への問い	p. 120～123	1
第5章 第一次世界大戦と大衆社会	(2) 第一次世界大戦と 大衆社会	p. 124～151	8
第6章 経済危機と第二次世界大戦	(3) 経済危機と 第二次世界大戦	p. 152～185	10
国際秩序の変化や大衆化と 現代的な諸課題 －大衆の文化は人々をどう変えたの だろうか	(4) 国際秩序の変化や 大衆化と現代的な 諸課題	p. 188～189	1



グローバル化への問い	D グローバル化と私たち (1) グローバル化への問い	p. 190～193	1
第7章 冷戦と脱植民地化	(2) 冷戦と世界経済  (3) 世界秩序の変容と日本	p. 194～211	3
第8章 多極化する世界		p. 212～225	3
第9章 グローバル化と現代世界		p. 226～233	2
現代的な諸課題の形成と展望 －戦争の防止への国際的取り組みの 歴史的経緯と課題	(4) 現代的な諸課題の 形成と展望	p. 234～239	2
		計	63